

# 新生児出血性疾患および乳児ビタミンK欠乏性出血症に対する ビタミンK<sub>2</sub>シロップの予防的投与効果の臨床的研究

東京都立築地産院

村田文也, 多田裕  
三科潤

東京都荒川産院小児科 吉野伸

東京都母子保健院小児科 黒沢恭子

東京都豊島病院小児科 白井徳満

東京都墨東病院小児科

西川慶繁, 右田琢生

## 研究目的

新生児出血性疾患と乳児ビタミンK欠乏性出血症の発生を予防するためにビタミンK<sub>2</sub>シロップを投与し、その効果を検討する。

## 研究対象および方法

### 1. 研究対象

報告者達が所属する東京都立病産院5施設で出生し、親がビタミンK<sub>2</sub>シロップの投与を申し込んだ正常新生児(低出生体重児および疾患を有する児を除く)。

### 2. ビタミンK<sub>2</sub>シロップの投与方法

下記の時期にビタミンK<sub>2</sub>シロップを1ml(K<sub>2</sub> 2mg)宛、職員が経口的に投与した。

#### 1) 出生後、間もなく

新生児が哺乳を開始し、母乳または人工乳を数回飲んだことを確認した後、授乳に先立って経口投与した。

#### 2) 日令6または7(退院前)

#### 3) 日令約30(1カ月健診時)

### 3. 観察期間

生後3カ月まで。

## 研究結果(表)

### 1. 3回投与を行なった例数

昭和59年9~11月に出生した新生児のうち、上記Ⅱ-1に該当した投与対象は1,161例、うち、3回投与を受けた児は1,075例であった。

### 2. 乳児ビタミンK欠乏性出血症

3回投与を受けた1,075例中、1例も認められなかった。

### 3. 新生児出血性疾患の疑

新生児出血性疾患の疑が1例、他に、集計後切後の疑2例が認められた。これら3例中2例は、症状と経過が定型であったが、臨床検査成績が揃わず、他の1例はコーヒー残渣様嘔吐を認めへパプラスチンテスト8%であったが、症状はコーヒー残渣様嘔吐2回だけであった。3例の発症は、それぞれ生後20, 15, 39時間、ビタミンK<sub>2</sub>シロップの投与時期は、それぞれ生後15時間、未投与、25時間であった。

### 4. 副作用

ビタミンK<sub>2</sub>シロップ投与による副作用は認められなかった。

### 5. 3回投与が出来なかった理由

第1回投与前の嘔吐	9例
職員が投与を忘れた	17例
1カ月健診に来院せず	60例

## 要約および考察

東京都立病産院5施設において出生した正常新生児に対し、新生児出血性疾患と乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防を目的として、ビタミンK<sub>2</sub>シロップを生後間もなく、日令6または7(退院前)、日令約30(1カ月健診時)の合計3回、各回1ml(K<sub>2</sub> 2mg)を投与した。

3回投与を受けた1,075例中、副作用は認められず、乳児ビタミンK欠乏性出血症も認められな

かった。

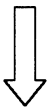
新生児出血性疾患は疑1例，他に集計メ切後の疑2例が認められた。ビタミンK<sub>2</sub>シロップの投与を生後何時間までの間に行なうべきか，また，その予防効果の確認などについて今後の検討を要すると思われる。

表 東京都立5施設におけるV<sub>2</sub>シロップ投与成績

施設	A	B	C	D	E	合計
投与開始年月日	59.9.1	9.10	10.12	10.15	10.18	59.9.1 ~10.18
投与対象	416	341	167	151	86	1161
3回投与例数	408	319	129	148	71	1075
3回投与できなかったVK 欠乏による出血	8	22	38	3	15	86
1) 新生児出血性疾患の疑	0	1	0	0	0	1
2) 乳児ビタミンK欠乏性 出血症	0	0	0	0	0	0
副作用	0	0	0	0	0	0



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

新生児出血性疾患と乳児ビタミンK欠乏性出血症の発生を予防するためにビタミンK2シロップを投与し、その効果を検討する。